

NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第97号 (R元.8.20)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7（メール info@ormz.or.jp）文責：日高良雄



はじめに 8月下旬となりました。今年は梅雨開けが遅っていましたが、梅雨明けと共に猛暑が訪れ、九州はもちろん、関東、東北等各地で35度を超えてます。そして台風がお盆の前後に3つ続けて襲来し、各地で被害が出ています。皆様の地域ではいかがだったでしょうか？

我が家では台風の強風で庭の百合の花が落ちてしましましたし、お盆休みに家族連れで宮崎に来られた友人達も海で遊べず残念そうでした。



また、BSフジで8月12日にUMKテレビ宮崎制作のドキュメンタリー番組「道なき道の彼方へ—へき地を診る医師—」が放送されたようで、「感動しました」との感想をいただいています。ありがとうございます。

さて、今回のORMZニュースは、会の活動報告や巡回診療の様子や同行報告などを伝えします。

今後とも皆様のご支援のほどよろしくお願いします。

会の活動報告

・7月28日、認定NPO法人の更新申請を行いました。寄附に対する税制上の優遇措置が認められるNPO法人になって来年1月で5年となります。そのため、さらに5年の認定を受けるべく更新申請を行いました。今後様々な書類審査を受けることになります。

・8月4日、第23回地球倫理推進賞へ応募しました。1998年に創設された賞で、3年前に申請したのですが、その際は採択されませんでした。なかなか厳しい賞ですが、これまでの活動を報告書としてまとめ申請しました。今年12月頃に結果がわかります。賛助会員さんからのおすすめでした。

・講演会のお知らせ 宮崎県内の中学、高校で山元先生が講演を行うこととなりました。8月22日(木)西校附属中学校、9月19日(木)宮崎大宮高校、そして9月26日(木)宮崎西高校です。大宮高校ではボランティア部の生徒さんが学園祭でORMZの展示と寄附集めをしてくれること、ありがとうございます。

現地活動報告（ザンビアより芦田様から）

◎7月24日ニヤンカンガ巡回診療

同行者：ムレタさん、チブリカさん、ボストンさん、プリスカさん、スタッフ：ダニエル

CHW：3人：リタさん、レアさん、サミュエルさん

患者数：61人 マラリア検査数61人うち陽性7人

主な症状：頭痛、腰痛、咳等 重篤なケース：無し

*蚊帳販売：0個（残り102個）

*道路状況：前回と変わりなし。

◎8月7日サンダラ巡回診療

同行者：ムレタさん、チブリカさん、ボストンさん、プリスカさん、ニヨニさん、

スタッフ：ギルバート、ダニエル、宮地さん・川本さん（訪問者）

CHW：5人：マチラさん、コンスタンスさん、ミルナーさん、クリスタベルさん、エリアスさん

患者数：54人 マラリア検査数54人うち陽性15人

主な症状：頭痛、腰痛、腹痛等

重篤なケース： 1名（女児8歳）往路マプランガにて、木から落ちて太ももに深い傷あり。応急処置後、帰路ピックアップし、チペンビクリニックに寄り、治療を受けるよう指示。
*蚊帳販売：0個（残り102個）
*道路状況：サパニからマンゴーツリーまでは未整備のまま。

◎8月14日ルアノ巡回診療

同行者：ムレタさん、チブリカさん、ボストンさん、メアリーさん、ニヨニさん、ST：ギルバート

CHW：3人：マンボさん（ルアノ）、リネットさん（マプランガ）、クリストファーさん

患者数： 110人 マラリア検査数110人うち陽性12人

主な症状：下痢、咳等

重篤なケース：①父親と二人暮らしの少年10歳が、父親に棒でひどくぶたれ、肋骨（背中）にケガ。ムレタさんは、X線などの必要性を話し、紹介しようとしたが、叔父（シェレニ村長の弟）や祖母が搬送を拒否。事情は不明だが、叔父らは父親に味方している様子とのこと。叩かれたのは11日で、事件を知ったシェレニ村長は、警察に通報した。父親は行方不明。診療時、シェレニ村長はルサカ滞在中で、説得してもらえなかった。携帯電話を持つマチラさんを通じて、フォローアップ予定。

②帰路に妊婦が助けを求めてきた。マラリア陽性でひどい腹痛があるため、チペンビクリニックへ

*蚊帳販売：0個（残り102個）

*井戸の水質に関する懸念： 下痢が増えている理由として、井戸の水質に懸念があるとのこと。具体的には、シェレニのセンター、マンゴーツリーの手前、シェレニ村の手前の3つの井戸を利用している人に下痢が多いとのこと。（→ 至急検査を行うよう連絡しました）

*道路状況：変わりなし。先月チーフ・チャムカによる道路整備の指示があったが何も行われていない。郡は先週来て、道路整備が行われていないことを確認した様子。明日16日チーフチャムカはルアノ周辺の村長と会議をする予定なので、その際に話が出るかも知れない。

現地活動見学 <巡回診療への同行お礼と山元先生からの返信>

お世話になっております、ハンガリー国立セゲド大学医学部5年の川本歩と申します。

この度はORMZ活動見学を快諾していただき誠にありがとうございました。恐縮ですが私の気づきを3点ほど共有させていただきます。

1.僻地医療に携わる覚悟

・今まで私はジンバのミッションホスピタル、タンザニアのモシにある3次病院、そしてルサカのUTHと3つの病院で研修をしてきました。アジアではジャパンハートを通じてミャンマーの病院を見学した事があります。しかしORMZは他の組織と全く異なる環境で活動をされているという事に気づきました。それはサービスが行き渡っていない人達に医療を届けるために片道5~6時間、数カ所の川を渡りながら巡回医療をするなど様々な困難があるからです。

・私が山元先生の活動を真似しろと言われてもやっていける自信は今のところございません。さらに、ムレタさんを始め、現地の医療スタッフを巻き込んで活動を続けている山元先生には頭があがりません。診療するために必要なカルテ（ノート）、薬だけではなく椅子、机も全て持参され本当の0から医療を届ける活動は誰かがやらないといけないと分かっていながら中々自分が一歩を踏み出す勇気、覚悟が無いことに気づきました。今回の見学を通じて、アフリカで医療活動をしたいと高校生から



考えていた自分に改めてどのような活動をしたいのか自問自答する機会をいただきました。

2. 診察のスキル

・今回はムレタさんとプリスカさんのお二人が診察をしていました。主訴を聞き、身体検査をし、薬を処方するという流れですがマラリア陽性患者にはマラリアの薬を処方すれば良いかと思います。しかし、マラリア陰性患者の主訴に対して重篤な疾患を見逃してはいないだろうかと少し不安に思いました。例えば胸痛を訴える患者が多くたのですが心疾患を疑うとなると心電図やエコーがどうしても必要になるかと思います。しかし、僻地医療でそこまでの機材を用意するのは難しいのでいかに聴診等で見極める事が出来るかが大事になると見えます。そうすると私が日本でトレーニングをすると機材に頼ってしまい、診察のスキルが身につかないのではないかと少し懸念した次第です。

3. 多い主訴の根本的な原因解明

・胸痛や腹痛、咳が主訴として多いと感じました。しかし胸痛といつても場所や放射痛、咳も痰の有無など様々な種類が考えられ、それにより原因も異なると思います。僻地医療の目的によるかもしれませんし、私が唱えているのはただの理想論かもしれませんのが痛みや咳の症状を診察の時にもう少し分析し、初診の場合は症状を抑える治療で良いかもしれませんが何度も同じ症状を訴える場合は原因解明に努め、予防できる事があればそれを見つける事も患者の為になる事なのではと考えました。

・改めまして、実際にお会いしたことのない私に活動見学の許可をいただきありがとうございました。山元先生の活動は他の日本人の医師が行っていない究極の僻地医療だと考えます。是非ご自愛いただき、これからも安全に活動を継続する事が出来るよう願っております。また、私が将来医師としてアフリカに戻ってくる際に助言を仰ぐ事があるかとございますがその際は何卒よろしくお願ひ申し上げます。

ハンガリー国立セゲド大学医学部 川本歩

川本さま

・貴重なコメントありがとうございます。ムレタさんは自分の力量を分かっておられる準医師です。自分が診ていて、症状が改善しない症例は、緊急性があれば郡・州病院に紹介していますし、私に必ずコンサルトしてきます。2011年から診療開始し、この間に明らかに狭心症の疑われる患者さんがおられましたが、本人が大きな病院に行くことを拒否され、ニフェジピンの徐放剤で経過をみています。また、一番近い郡病院には心電図はありません。

・十分な器材もなく診療しているので、何かおかしいと感じた時にはしっかりと問診・診察をするように心がけていますし、対応できない時には紹介状を書いていますが、紹介先に行く交通費もないことがほとんどです。プロジェクトで、そのお金を渡して何とか診察を受けに行くように勧めていますし、緊急性がある場合はプロジェクトの車で搬送することもあります。

・いろいろなご意見ありがとうございました。これからも真摯に診療していきたいと思います。

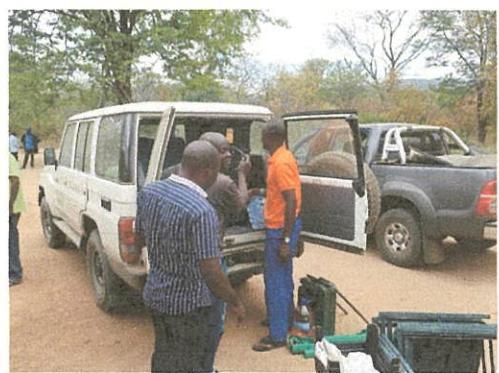
山元香代子

現地活動見学 < ザンビアへき地での巡回診療に同行 (中村哲郎 様) >

日本とザンビアを往復する生活を続けながら、従来よりザンビアのへき地での巡回診療を続けておられる山元香代子先生。

7月3日、そのチームの皆様の活動に参加させていただく機会を得ました。訪問先の Sandala という地区まで首都のルサカ市内から車で片道6時間。

ヘルスセンターと呼ばれる最寄りの医療施設からも約40キロ離れており、そこから悪路のために車でもゆうに3時間、人の足では丸一日かかります。さらに雨季には増水した川が行く手を阻み、この場所は陸の孤島になるとのこと。四輪駆動の車2台で現地に向かいます。



この場所では月に一回、ORMZ のチームにより巡回診療が無料でおこなわれていて、地元の人たちもボランティアで運営に携わります。マラリアの頻発地域であるこの場所では通常 100 人以上が列を作り診療を受けるとのことですが、今回は前の週に乳児検診が行われたこともあり数が少なく、46 名が受診し、マラリア 13 名、HIV2 名、その他も咳や高血圧、痔、婦人科疾患など色々な疾患が診断され、当座の薬が配布されました。また診療しての帰り道、道路は漆黒の闇に包まれていますが、路肩で患者の住民が私たち一行の通過を待っており、停車して診断・投薬を行う場面にも遭遇しました。

インフラがなく、政府もこの地区は住民の居住を認めていない場所ですが、多くの住民が土地を開拓して住んでいることもあり、地域保健局からの助言で山元先生のチームが医療援助を行っています。長年にわたり活動を続けられる山元先生のご献身に頭が下がると共に、もし今回治療薬が配布されなければ救えなかつた命もあることを考えると、医療支援の重要さと難しさを共に考えさせられた現場でした。

賛助会費の納入と寄附受領証明書の送付について

- ・2019 事業年度（事業年度は 1 月から 12 月）も 8 月となりました。賛助会費(個人一口 5000 円、団体一口 10000 円、一口以上) 及びご寄附(金額は問いません)のご協力をよろしくお願いします。
- ・当法人は認定 NPO 法人であり、ご寄附(賛助会費含む)いただいた際には、翌年の確定申告で税制上の優遇措置を受けるための寄附受領証明書(賛助会費も寄附金と同様税控除の対象)をお届けします。
- ・ご不明の点は日高（ info@ormz.or.jp または hidaka1956@gmail.com ）までご連絡ください。

★郵ちょ銀行からの振替

口座記号 01720-9 口座番号 126351

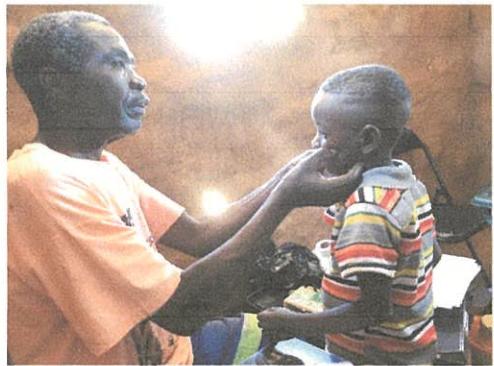
加入者名 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金

郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351

加入者名：NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称（全角）：トクヒ ザンビアノヘンチリヨウヲシエンスルカイ



* 令和元年（2019 年）もどうぞご支援のほどよろしくお願ひします